

第2回防府競輪活性化委員会会議録（概要）

日時	令和2年7月28日（火）午後1時30分から午後2時45分
場所	防府競輪場 サイクルシアター3階
出席者	<p>【委員】 大和委員、賀屋委員、羽嶋委員、港委員、吉本委員、窪川委員、島田委員、友景委員 ＜欠席委員＞林委員、大久保委員、石田委員</p> <p>【事務局】 熊野産業振興部長、赤松産業振興部参与、岡田競輪局長、藤田競輪局長補佐、中司競輪局業務係長</p>
傍聴者	なし
議事	<p>議題1 防府競輪活性化計画の策定について</p> <p>議題2 計画のフレームと活性化のコンセプトについて</p> <p>議題3 活性化の取組について</p>

1. 開会

- ・委員総数11名のところ、出席委員が8名で過半数の出席があるので会議が成立している。（事務局からの報告）
- ・賀屋委員長による挨拶 <省略>

2. 議事 <進行：賀屋委員長>

議題1：防府競輪活性化計画の策定について

事務局から説明

- ・資料1「防府競輪活性化計画の策定について」により、策定の目的、計画期間について説明。
- ・資料2「防府競輪活性化計画の策定スケジュール」により、令和2年度末までに計画策定すること、今後の防府競輪活性化委員会の開催予定について説明。

委員からの意見等

特になし。

議題2：計画のフレームと活性化のコンセプトについて

<計画のフレームについて>

事務局から説明

- ・資料3「防府競輪活性化について」により計画のフレームについて説明。
- ・配付した「防府競輪場に関するアンケート」は、7月の場外開催中の来場者に対して行ったアンケートの結果であるが、今後、計画の中に現状の防府競輪の取組と併せて載せていきたいという事務局の意向を説明。

委員からの意見等

特になし。

<活性化のコンセプトについて>

事務局から説明

- ・資料4の「防府競輪活性化のコンセプトについて」により説明。
- ・3つのコンセプトについて、「交流の輪が広がる競輪場」については、これまで来場されている競輪ファンの方だけでなく、初めて来場される方にも気軽に足を運んでもらえる競輪場であること。「コンパクトで快適な競輪場」の説明での「車券購入方法の変化」については、インターネットによる投票割合が増加し、競輪場での楽しみ方が変わって来ていること。「安定した経営を目指す競輪場」について、厳しい経営状況にあるので、安定した経営は事業存続のための重要事項と考えていることをそれぞれ補足説明。

委員からの意見等

- 【A委員】 コンセプトの順番はこれで良いと思うが、やはり競輪場が存続することが決まっているので、まずは「安定した経営を目指す競輪場」が重要になるのではないかと思う。安定した経営を行う中で、交流の輪が広がったり、快適な競輪場となるのでは。
- 【B委員】 自宅の近くに丸亀ボートがあるが、親子連れがすごく多いのに驚く。中に遊具があって子供が親と一緒に遊んでいて、雰囲気は競輪場と全く違う。コンパクトな競輪場は武雄競輪をイメージされているのだと思うが、その方向で行く方が良いと思う。コロナで一旦売り上げが下がったが、人が入り出してから、売上げは少し落ちてはいるが、7車立て9レースと以前の12レースより少ない中で、電話投票（インターネット投票）の伸びで売上げが良い。来場者は高齢のお客様が多く、若いお客様はインターネット投票をされるので、今後は来場者も大切にしながら、電話投票のお客様

を大切にしないといけないと思う。

議題3：活性化の取組について

事務局から説明

・参考資料「現在の防府競輪での取組について」「活性化のための取組<施策の例>」を参考にしながら、活性化のための取組にかかる施策について、意見をいただきたい。

<交流の輪を広げる取組について>

【C委員】 サイクルスポーツの関係で、指導する方によると防府競輪場ではマスターズの方がジュニアを指導するなど全国の中でも練習環境が良いと聞いている。競輪選手も地元選手にG I 優勝に近い選手もいるので、近県から練習に来ている選手も増えている。また、防府競輪場は西日本で唯一の33バンクであり貴重なので、有効に使っていきたい。

【委員長】 33バンクはどのようなものか。

【C委員】 九州にはなく、関西には奈良、中部には富山、東海には伊東温泉、小田原、関東では松戸ぐらいで、場数としては少ない。

【委員長】 「交流の輪を広げる取組」について、「明るいイメージの創出」「地域に開かれた競輪場」「サイクルスポーツ振興の拠点」「観光資源としての競輪場」の柱立てがあるが、この点について意見があればお願いしたい。

【D委員】 どこで意見を出せば良いか分からなかったのでここで発言する。Ⅲのコンセプトでは環境整備のことが書いてあり、Ⅳの活性化のための取組は個々のメニューのことだと思うが、環境整備とメニューがあれば人が来るのかという思いがある。ここに人を引っ張ってくる仕掛けとか人づくりとか、人が間に入って環境整備をして、メニューを乗せて、それが動いていくのでは。例えば、競輪場に人を集めるための手法として、競輪の楽しみ方を教えるマイスターや観光と組み合わせてツアーを持ってくる人、競輪場について知らないアマチュア選手へ情報発信をする人など。

コンセプトになるのか、活性化のための取組になるのか分からないが、行政だけでメニューをやることはできないので、人づくり的な観点から人材育成をして、その人達を通じて色んな取組をしてもらうという動きを計画の中で見せられればもう少し動いていくのではないかと。

【事務局】 人という観点については、細かいところでイメージしていた。競輪を知らない方に説明する競輪マイスターを作ったり、人を介して人に広げていく。明るいイメージの創出、地域に開かれた競輪場となっているので、どちらかというところでは施設ではなくて人が受けるイメージとして明るいイメージ。マイスターさんが良い人だと思われたら、競輪場っていいなと思っていただけたらと思うし、現場のスタッフも接遇についてもっと磨いていかないといけないと思う。

「人づくり」、「人を介して」ということは是非計画の中に入れさせていただきたいと考えている。

【E委員】 観光コンベンション協会も、交流人口の倍増の目標をもって色んな事業に取り組んでいる。競輪が分からない初心者でも、どなたでも来られるような場所、家族が来られるような場所。子供の声が聞こえるだけでそれだけで明るくなる。今日ここにきて思ったが、来られる人を変えないとだめだ。どうやって変えるか。これまで来られているお客さんもだが、それ以外の人をどうやって来てもらうかがポイントだと思う。観光コンベンション協会でも競輪ツアーを観光の体験プログラムの1つで組んでみたいと思った。是非、家族連れが来られる雰囲気仕上げてもらいたいし、観光コンベンション協会も全面的に支援、協力をしたい。

【事務局】 欠席されている委員の方からの「交流の輪を広げる取組について」意見を預かっているので紹介したい。

H委員からは、「サイクルスポーツの振興の拠点」として、施設名を「防府競輪場」だけではなく、別名を命名してはどうかというもの。例えば、「防府サイクルスポーツファミリーセンター」、「サイクルスポーツ交流場」というようなもの。悪いイメージを少しは払拭できるのでは。名前を一般公募しても良いのではとの意見があった。

I委員からは、競輪に詳しくない人は、周囲を通っても何があるか分からないと思うので、周囲に自転車競技を連想させる看板などを設置してはとのことであった。また、広島競輪場のサイクルパークのような自転車に乗れる施設があったら良いのではというもの。防府にもプロスポーツ選手がいることを一般向けにもっとアピールしてはとの意見があった。

<コンパクトで快適な場づくり>

【委員長】 「コンパクトで快適な場づくり」について、ご意見を伺いたい。施策の例では「来場者の動線の最適化」「老朽化施設の整備」「場内のバリアフリ

一」「新型コロナウイルスの感染対策」「顧客の嗜好に沿った整備と運営」となっている。前回はお客さんが使いやすいような動線、施設配置を考えるようにとの意見があり、委員の皆さんの総意だと思っている。

【F委員】 「1 交流の輪を広げる取組」がハードで、「2 コンパクトで快適な場づくり」がソフトという理解でよろしいか。

【事務局】 「2 コンパクトで快適な場づくり」には、ポイントで「動線」や「バリアフリー」というような表現もあるので、取組としてはハード面のイメージがあるかも知れないが、1と2をソフトとハードで分けている訳ではない。

【F委員】 2の「コンパクト」という言葉は、少しイメージがどうか。事務局から現状について施設が散在していると説明があったのでそれを纏めたのかと推察するが、コンパクトというと、小さくまとまってしまうようなイメージがあるがその辺はいかがか。

【事務局】 コンパクトについては、散在している施設を集約して、お客様にとって使いやすく、快適に競輪を楽しめる施設にしていきたいというもの。

【F委員】 分かった。先ほど人材育成という意見があった。私は車券の買い方が分からない。全く素人であれば車券の買い方が分からないが教えてくれる人がいないこともあり、なんとなく閉鎖的な空間が防府競輪場なのではないかというイメージがある。開かれた施設にしていこうとすれば、やはり施設改修が必要なのではないかと思っている。

<安定した経営を目指した取組>

【B委員】 ナイターはする予定なのか。

【事務局】 ナイターは考えていない。

【委員長】 資料4には、「ファン獲得の方策」「車券売上の引上げ」「効率的な事業運営（費用対効果）」「施設の有効利用（競輪以外での事業収入確保）」があがっている。

【事務局】 欠席されているK委員さんからの意見を預かっているので紹介したい。施設の有効利用に関連して、現状は駐車場が余っており、北側駐車場はほ

とんど使われていないようだが、市民が集える場として提供してはどうか。例えば、サイクルスポーツ・レクリエーションゾーンとして、幼児から小学校低学年で流行っているストライダーのコースを作って記録会を実施することなど。意外と子供にストライダーをさせている保護者は多いと思われるので、ある程度の人数は集まると思われる。

【委員長】 今までの議論を踏まえて、委員の皆様から一言ずつ意見なりを頂戴したい。

【G委員】 「交流の輪を広げる取組」の中に「観光資源としての競輪場」というものがあつた。天神山・競輪場周辺での大きなイベントとしては花火大会があるが、コンパクトな施設を整備する中で、今後も、多目的に多様な使用に対応できるような施設の整備をしてほしい。

イベントをするには飲食をする場所が必要になるが、競輪場内にも食堂がある。人が集まれば食堂が盛り上がるのではないか。

【委員長】 既存施設の多様な使い方などについては、まだまだ色々なものがあると思う。いずれにしても競輪を開催していないときも施設がある。競輪場のロケーションは天満宮も近く、高台にあるので市内が一望でき、駐車場も広い。市民が集う活動や、競輪に近い人の集まりなどでの活用、お子さんが参加するイベントとか、子供がいれば必ず保護者も集まる。競輪そのものや他のものと観光と結びつける。例えば、日頃見ないようなコンビナートや工場、夜景と観光と結びつける産業観光などもある。競輪場にいろんな方に来てもらう契機になるようになれば素晴らしいと思う。

まだまだ色んな意見があろうかと思うが、今までの議論を踏まえて最後に委員の皆様から一言ずつお言葉を頂戴したい。

【F委員】 競輪場は閉鎖的な空間というのは他の方も感じておられると思う。昔、京都競馬を通ったときに芝生の上で家族づれが弁当を食べていた光景を思い出した。誰もがちょっと寄れるような施設にしていだけたら。

【D委員】 「コンパクトで快適な場づくり」の施策の例で「老朽化施設の整備」の中に「施設の撤去及び必要な施設の再整備」とあつたが、競輪のために必要な投票所などの施設は整備されると思うが、交流の輪を広げる取組などの施策で必要となる施設の整備をどのようにしていくかの議論も必要ではないか。交流の輪を広げる取組をある程度イメージできた次のステップで、それに必要な施設の整備についてもイメージできるものと思う。

「安定した経営を目指した取組」の関係で、駐車場に新しい施設をいう

のがあったが、この計画の中でそこまで展望して作るのか。例えば、文化施設のような競輪関係以外の施設を作ると人が増えるというのは、広げすぎと思う。余っている駐車場の再整備を含めてこの委員会が具申するのか、この段階で決めておいた方が良いのではないかと感じた。

【E委員】 防府駅から天満宮までの街並みはバラバラの感があり、古い建物の改修であればデザインなどで統一感があればいいなと考えている。競輪場も例えば「日本で初の木造競輪場」とか、なぜそうしたのかと聞かれたときに理由を答えられるようにしてほしい。

車券の買い方が分からないので、競輪マイスターなどの教えてくれる人がいて初心者でも大丈夫となればよいと思うし、そういったことも絡めて、観光コンベンション協会で競輪ツアーを企画してもいいと思っている。

競輪場は自転車競技関係を含んだものにしてもらいたい。

【J委員】 先日の本場開催で競輪場に来て車券を買って場内を歩いてみたが、正直ガラが悪いと思った。選手に対するヤジがあり、子供を連れて来られるか不安に感じた。子供向けのもを入れて明るい雰囲気にしたたり、入口が狭く閉鎖的なので間口を広げて入り易い雰囲気を作る必要もあると感じた。

食堂についても他のお客さんもお飯が食べられるとお客さんが増えて良いのではないか。

現状分析と課題から施策を考えられていると思うが、なかなかうまくいかないこともあるかと考える。これだけは譲れないというところをどう選別していくのは大変だと思うが、頑張ってもらいたい。特に高校生などの若い人の意見を聴いても良いかと思う。

【B委員】 先日他の競輪場の方とも話をしたが、コンパクトな施設整備は全国的な流れである。コンパクトな施設というときに、芝生のあるような施設をイメージしたが、競輪場は確かにヤジが多い。ボートはヤジがないので、競輪業界として今後取り組まなければならないと思っている。

高知競輪場では、走路（バンク）を使用した子供のストライダーの大会を毎年行っており、県外からも人が来ている。

【C委員】 コーナースタンドにはほとんどの方が行っていないが、一番見やすいところなので、うまい具合に使って貸し出すなどを検討してはどうか。

競輪場にお客さんに沢山来てもらうためには、地元の選手に頑張ってもらって強くなってもらう必要がある。現在地元選手が活躍して盛り上がっているが、これからも継続して山口県の選手が出るよう努力していきたい。

【委員長】 競輪場は、競輪をしない人にとってはなじみがなく、風紀が良いとは言えないのは事実。これからも20年、30年と競輪場を運営されると思うが、競輪を担う人、競輪そのものも変わっていくと思うので、施設整備、コンセプトについてもこれからの社会にあったものを考えていくべきと思う。

コンセプトにある「コンパクト」という言葉は「こじんまり」としたというイメージが多少あると思う。例えば、「機能的で快適な競輪場」などの言い方もあるのでは。いろんな意味が集約されているものとは思いますが、言葉が強い気もするので、「コンパクト」で良いかどうか検討してもらいたい。

車券の買い方を気軽に尋ねられる案内人の配置を検討してもらいたい。また、競輪に深く関わっていない人が文化スポーツ的な観点から競輪場に関わるときに、できるだけ壁を低くするような工夫、防府競輪が変わったと言われるようなインパクトがある仕掛けが必要ではないかと感じた。

委員の皆様から出た様々な貴重なご意見や文書で頂戴した意見を踏まえて、これから事務局は素案作りに向けて頑張っていたきたい。

以上で議事を終了し、事務局にお返しする。

3. その他

以下について、事務局から連絡がある。

- ・今後、当委員会の会議録の確認を出席委員にお願いする。
- ・次回は10月上旬の開催を予定している。

閉会